

4-2 商業科キャンパス 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○個別の進路希望に応じたきめ細かな進路指導と面談指導及び進路ガイダンスの充実	○進路決定率100%を目指す。 ○3年生は年1回、1・2年生は年2回の進路に関するガイダンス等を実施し、進路意識の向上を図る。	・基礎力診断テストや各種模試を実施し、生徒の進路目標への到達を確認させる。それを踏まえ、生徒に応じた小論文指導・面接指導等を計画・実施し、生徒の希望に対応した進路指導に取り組む。							進路主事
	○主体的に考え、行動する力を育成するためにICT機器を活用した授業に取り組む	○年間2回を目標に、全クラス一斉に「ICT機器利活用100%」の授業を実施する。 ○臨時休校が生じた場合、実施可能な授業でオンライン授業を実施する。	・オンライン授業に必要な知識・技術について全職員を対象に研修を実施する。 ・積極的にICT機器を活用した授業に取り組む。							ICT推進リーダー
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○社会で役に立つ挨拶や身だしなみ、相手を思いやる会話やマナーを身に付けさせる。 ○月1回の服装検査を実施する。	・学年団と連携した指導に取り組む。 ・講演会等の集合時間の厳守や、話を聞く態度を育成する。							生徒指導
	●心への早期発見、早期対応体制の充実	○年間2回、生徒との個別面談を行う。 ○年間2回、いじめのアンケートを実施する。 ○問題の把握当日に対応を行う。	・QUTテストの活用により生徒の状況を把握し、個別面談の充実を図る。 ・面談週間を活用し、生徒個人や生徒間の情報収集を計る。							教育相談担当
	○人の意見を受け入れ、共感できる心を持ち、自分の考えを発信する力(ボランティア活動、スピーチ力)を養成	○地域とつながる高校魅力づくりプロジェクトを通じて地域との交流活動を推進し、地域のニーズに応じた活動を実践する。	・生徒にボランティア活動の内容について意見を募り、計画・実施を行う。 ・文化祭などの行事の中で、スピーチコンテストなどを実施する。							生徒会
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康に食事は大切である」と考える生徒の割合を80%以上にする。 ○食事と健康・肥満等との関係を理解する生徒の増加を目指す。	・食と健康について保健だりの発行を行う。 ・アンケートによる意識調査を行う。							保健主事
	○質の高い授業と行事・部活動のバランスを目指す	○可能な限り学習時間をなくすとともに、各教科の授業実施率を標準化する。 ○放課後の時間帯の活用について、意識した取り組みを行う。	・出張予定を速やかに把握し、時間割の振り替えに反映させる。 ・合同行事について、早めに実施要項を作成し職員への周知を図る。 ・スクールバス運行時間や方法について、迅速に対応し活用を図る。							教務主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・ICT機器を活用した業務改善に取り組むとともに、行事の精選等による業務の削減を行う。また、個々の職員が勤務時間や業務効率を意識した働き方を実践する。							副校長
	○教職員の連携協力体制の確立・普通科キャンパスと商業科キャンパスの教育活動の工夫・改善	○両キャンパスの年間行事で、合同で実施する場合の円滑な運営のために、連携会議を年間6回以上実施する。	・月に1回程度、普通科・商業科CPとの連絡調整を行いながら、2か月程度を見越した連携会議を実施し、両キャンパス合同行事等の円滑な実施を図る。							主幹教諭
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○高校魅力づくりの推進	○Think globally, act locallyのスローガンのもと、地球規模で物事を考え、それを佐賀や地域に結びつける教育活動	○年間3回チーム会議を開催し、PDCAサイクルにより取り組みを充実させる。 ○ワーキンググループ(WG)活動について情報を整理し、当事業に位置付けながらブラッシュアップを図る。 ○活動内容について、地域に周知を図り、本校の教育に対する理解を促進する。	・コーディネーターと連携し、1年間を見通したプランを作成・実施する。実施後、検証し、次のプランに活かす。 ・従来の取り組みについて情報を収集、整理すると同時に、チーム会議やWG活動を通して、外部の意見を取り入れながら実現可能な取り組みを計画に反映する。中間報告会を実施するために令和元年度、令和2年度前半の取り組みを行う。 ・プレスリリースやHPでの案内など広報活動を充実させる。							
○防災教育	○専門家を通して地域の現状を知り、様々な災害を想定して命を守るシミュレーションを実施する	○防災訓練、避難訓練を1回以上実施する。 ○防災意識が高まったとする生徒の割合を70%以上にする。	・火災・震災・その他の災害の予防及び人命の安全並びに災害の防止を認識させる。 ・雨防署に指導を依頼し、防災避難訓練をおこなう必要事項を学ばせる。							生徒指導
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育										
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 									